



園部共同作業所だより

園部共同作業所発行

〒622京都府船井郡園部町上本橋

No 20

32 0771.62)3249

阪神大震災の被害を受けられた地域の皆様には、心からお見舞い申し上げます。そして、日も早い復興を、お祈りいたします。平成七年一月七日の地震以来、新聞、テレビ等のマスコミで、大震災の悲惨さが報道されました。作業所の通所仲間も、「神戸の作業所は全壊や」、「お金も服も食べ物もあらへんのや」、「あんなになつたらかなんなー、他人ごとではないな」とそんな話から、義援金箱が出来ると、自分の貴重な工賃から、はたまた家でコツコツためた小銭がいったばいの貯金箱を持ってきてくれました。まさに、「貧者の一灯」心暖まる行為に、思わず握手、ありがとう。こんな時でしたが、なんだかうれしく、ホットした気持ちになりました。作業所の下請け作業は不況のなか、普段でもなかなか無いのに、そこへ阪神大震災、京都への観光客はパツタリ止まりました。自肅のため団体さんのキャンセルが出たのです。京のみやげ屋さんの従業員、パートさんは自分自宅待機とか。我々の下請け作業の週の半数は、京みやげの紙箱を折っているのです。業者の倉庫には売れない箱が山積み、当然仕事は来なくなりまして。どうしよう。

そこで保護者の方や、ボランティアさんをお願いして、木を輪切りにしてもらいました。それをペーパーでこすつてます。出来上がりは自然の味わいがあったりなかなかなのです。仕上げにニスなど塗れば鍋敷きに、いやいや花瓶、立派な置物の台になります。四月

に入りぼつぼつ従来の仕事に戻って来ました。さつそく材料の搬入、納品で車で走り回っています。しかし頭の中は、今後このような事態になつたりそれが長期化したら作業所はどうなるのか、そんな思いがいったばいの今日この頃です。

所長 杉山俊夫



京都府共同募金会より平成六年度NHK歳末たすけあい義援金を受ける。

この義援金で作業所の老朽化した天井の張り替えができました。これで天井のすき間からほこりやすすが落ちず作業場も明るく気持ちよく作業ができます。ありがとうございました。

保健婦としてこころの病気にについて思うこと

丹波町保健管理センター
保健婦 山田由美子

精神の病気、つまり、こころの病気は特別な人達だけがかる病気と考えている人達がよく、又、マスクミ等で報じられる。コワイイメージを持つ人も多いのではないのでしょうか。しかし、ストレスの多い現代社会では、誰でもかかる病気なのですが、そのようには思われていないようです。

こころの病気には、神経症やうつ病、アルコール依存症、精神分裂病、老人性痴呆などがあります。その中で、丹波町では、ボケ老人をかかえる家族会を開催し、今年で六年になります。又、デイサービスやショートステイの利用もできるようになり、不十分なながらもボケ老人(老人性痴呆)について理解されつつあると思います。しかし、その他の精神の病気、分裂病やうつ病などについては、まだまだ理解されておらず、家族の方々は「自分の育て方が悪かったのではないか」、「遺伝するのではないか」と不安に思い近所や親戚に知られたくないとの思いから、本人と家族だけで、地域から孤立しひっそりと生活しているのが現状です。

丹波町でも三名の方が通所されています。

家族の方々に病気について正しい知識を持ち、対応について学んでいただくことは病気の再発予防

にもなります。又、家族の自責感や不安を解消することは、家族が地域の中で生き生きと生活しゆとりを持って生活して行く為には必要です。以上のことは、本人の療養生活や社会復帰を支える為にも大切なことだと思つて居るのですが、出来ていないのが現状です。

これから、保健婦としてこころの病気を持った人、家族を含めて高齢者の方々、すべての人達がこころ豊かに生活できる町づくりをめざして微力ではありますが、努力して行きたいと思つて居るところです。

- ボランティア協力の方々
(木材輪切り作業)
中瀬慶太郎 様
中川 巖 様
明田 峰男 様
(コパテープはり作業)
吉田 冬子 様
ありがとうございました。
- レクレーション・行事
二月二日 体力測定(保健所にて)
三月二十二日から二十三日 一泊研修旅行
(渥美半島・伊良湖岬)
四月十二日 花見(京都市植物園)

花見—孤独な人(私)

F.S.

花見といえは思い出すのが、落語の「長屋の花見」。しかし、関係がないので本題に移ろう。

平成七年四月一二日。天気曇時々晴。所は京都植物園。私がこの共同作業所にお世話になって約三カ月。ブツブツ話し合う人も出てきたところだ。園部保健所に九時四〇分集合。行きも帰りもカラオケでパーティーした。私も「木曾の女」の二番を歌わしてもらい、黒田先生に「船越さん、この歌思いださはったな」との評をしていただいた。費用が〇円で行かしてもらい、福祉の方も充実してきたなどありがたくおもった。

着いて、植物園入ったところでSさんに記念写真をとってもらい私も中腰で、きたない顔をほころばした。お弁当をよばれる自由行動。私はカメラを持っていったが人は写さなかった。なぜかという私が写真をとった人が若死にしまった、にがい経験があるからだ。そこでつけたのが副題の「孤独な人(私)」だ。

桜も綺麗だったが、温室にはいろいろなめずらしい花がみられてよかった。世界一大きな花やサボテン。どれもこれもすばらしい。アツというまに帰りの時間がきて帰路に着いた。堀川通りを五条まで下って下さったので私が昔勤めていた山尾薬品の前を通って日本商事と合併すると聞いていたがその通り「日本商事」と看板があがっていた。写真をとったが写

っていなかった。皆さんありがとう。

最後に五千円札の肖像画でおなじみの新戸渡稲造著「武士道(岩波書店)」の本のカードにこう書いてあった。

「武士道はその表徴たる桜花と同じく、日本の土地に固有のはなである」と。

寄贈品

安永多喜子 レモン

吉田キヨ 菓子

京都府社協 ファイブミニ他

的場利三郎 菓子

平田ヨシノ 菓子

城島幹夫

シュークリーム、林檎、酒粕他

明田商店 靴、モード履

上条紙工 ジュース

寄付金

京都府共同募金会

(天井修繕分)

伊良湖の旅行を終えて

H.T.

私にとって研修旅行は二回目です。その二回の内伊良湖半島旅行は特に思い出に残るものでした。私事のなりますが、私は昨年七月から八月まで、始めての入院を経験しました。いくらよい病院とはいえ私にとって入院生活は、窮屈なものでした。

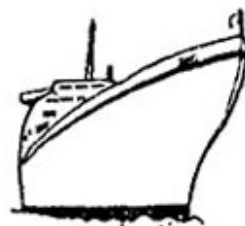
退院したからは、私は半日とはいえ毎日作業所に通えるようになりました。なぜ毎日行けるようになったかといえは、それは、先生や作業所の仲間の励ましがあつたからに他になりません。「いっしょに旅行に行けるように頑張ろう」と。私にとってはすごく勇気付けられました。そして、旅行はすごく楽しく有意義なものとなりました。

旅の始まりは、近鉄特急で始まりました。車の中では仲間とのおしゃべりや、快適な乗りごころなど、あつという間に時間はすぎて行きました。鳥羽から伊良湖までは、フェリーボートでした。

当日は良い天気恵まれ、甲板から眺める海は、あたたかい風とともに最高の気分でした。伊良湖ビューホテルに着くとすばらしい施設と、最高の眺めが、私たちを迎えてくれました。なかにはボウリング場や、パチンコがあるほどでした。宴会では、すばらしい海の幸に舌鼓を内ながら、仲間のカラオケを楽しみました。カラオケはホテルの係りに人が驚くほどの腕前でした。

美味しい料理、楽しいカラオケと時間はあっという間にすぎました。

楽しかった研修旅行を良い思い出とし、来年もみんなで行けるよう、毎日の作業を頑張りたいと思います。最後になりますが、先生そして作業所の仲間、本当に有り難うございました。



編集後記

今年には阪神大震災
サリン事件
大阪、東京はタレント知事の誕生
なんだか大変な年になりそう
皆様も気持ちを引き締めて